

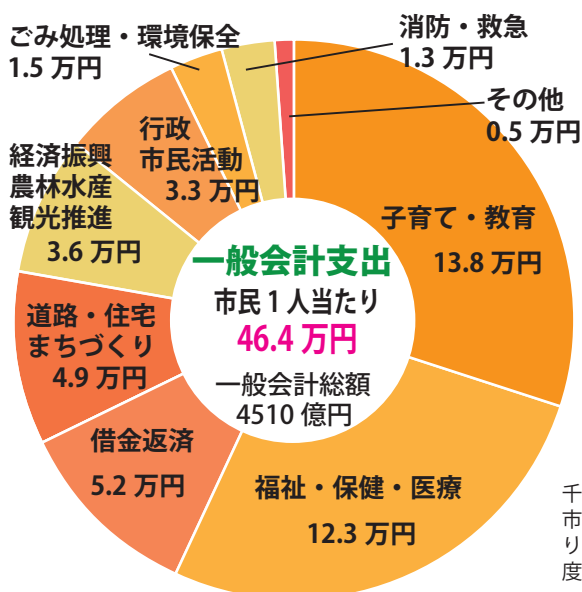
市民ネットワーク 議会通信

2020 年（令和 2 年）
千葉市議会第 3 回定例会
9 月 8 日～10 月 7 日



災害や“コロナ”への対策を進めたことを評価 **決算を認定**

2019 年度の決算を審査しました。50 人の議員が 5 つの分科会（総務・保健消防・環境経済・教育未来・都市建設）に分かれ、個々の事業に対し意見要望を述べました。



千葉市 HP「みんなの財政」市のお金の使い道をわかりやすく説明。「令和元年度決算」をご覧ください。

きめ細やかに、着実に、市民に必要な支援を！

昨年秋の台風被害への対応として、インフラや公共施設の復旧等「災害復旧費」51億9700万円が当初予算に追加されました。また、今年に入って広がった新型コロナウイルス感染症の対策として、電話相談窓口の開設、医薬品やマスクなどの購入、市政だより臨時号による情報提供や広報活動など、市民の命と健康を守るための緊急事業が実施されました。

さらに、左のグラフのように、子育て（保育所や子どもルームの受け入れ枠拡大など）や教育（小中学校普通教室へのエアコン設置など）に関する事業にも積極的に取り組んでいます。実質公債費比率12.9%は政令市20市中最低位と、依然借金の割合が高い状況ですが、工夫をしながら財政を運営したことを評価し、決算を「認定」しました。

引き続き、新型コロナウイルスの影響や市民生活の変化を見すえ、新たな事業をすすめるとともに、いま市民に必要な支援を、きめ細やかに、着実に推進するよう求めました。

総務分科会から 松井かよ子

* 財政・防災・分野横断的な事業等

● 備蓄品を試す防災訓練を

避難所の開設・運営の手順がYouTubeで公開されました。これを活用して、学校・公民館・コミュニティセンター・町内自治会館などで備蓄品を試しながら防災訓練を行い、いざという時にできるだけ混乱が生じない体制づくりを要望しました。



● ペットとの避難について検討を

昨年台風被害の際に初めて開設された、ペットとの同伴避難所についても、今後のあり方について検討し、市民へ広く知らせることを求めました。

● 「ちばシティポイント」の対象拡充を

「ちば風太WAONカード」に貯めることができる「ちばシティポイント」ですが、ウォーキングなどの健康づくりポイントに加えて、今後は地域の清掃活動などにも対象を拡げて、より多くの人に参加し、ポイントを得られる仕組みとするよう要望しました。

教育未来分科会から 岩崎明子

* 学校・生涯学習・子育て支援事業等

● 子どもの参画を積極的に進めて！

事業の対象になりうる小学生～大学生の人口は 14 万 5 千人。それに対し「こども若者のカワークショップ」は 165 人「こども若者市役所」は 291 人参加と少なすぎます。CBT こどものまちも 6 区開催の目標を達成できていません。体験した子どもが成果を発表できる場を増やして共感を広げ、参加者増につなげるよう求めました。



2018 年わかば CBT の市長選挙と子どもが運営するフードコート

● 学校が変われば不登校児童生徒は減らせる

新たにフリースクールと連携してインターネット学習環境を整備し、学びの場を広げられたのは成果です。しかし、学校が一人ひとりの困りごとに寄り添えるようになれば不登校は減らせます。地域連携も強化しながら、学校の在り方改革に取り組むよう要望しました。

ベランダの黒い粉（降下ばいじん）対策は？

千葉市の取り組み

千葉市に大気環境保全専門委員会が設置されています。昨年度は、過去3年間の降下ばいじん調査結果の解析を行い、主要な発生源は「臨海部の製鉄工場」と結論づけました。今年度は、第1回委員会を8月に開催し、市の降下ばいじん対策について報告が行われました。

調査地点の追加

市では監視を強化するため、今年4月、原料の石炭等の堆積場から近く、マンションなどが立地している中央区中央港の千葉県立美術館を調査地点として追加しています。また、事業者の自主的な取り組みとして、GLOBO 屋上、東京ガス、稲荷神社、福正寺、蘇我小学校に新たな測定点が設けられています。有効な対策に結び付けるためには、被害の深刻なエリアにきめ細かく測定点を設置し、事業者の対策の効果（＝降下ばいじんの削減）がどの範囲に及んでいるかわかるようにすべきです。しかし市は「検証の結果によっては必要に応じて事業者に更なる自主的な取り組みを求めていく」と発言するにとどまっています。



マンションの廊下にたまった黒い粉

環境目標値の見直し

現在の月平均、年平均の環境目標値では基準値内であっても、南西の風が吹けば、1日であっという間にベランダや廊下真っ黒になります。市民が生活を送る上で不便がないように、月に何日上限值を越えたか、などの指標の見直しを要望しました。

市民との協働でコアジサシの保護を

千葉市の鳥であるコアジサシですが、春に人工海浜で営巣をして、ヒナを育てます。今年春は約400巣が確認されたものの、ネコなどに襲われ、育った幼鳥は15羽のみでした。来年の繁殖シーズンに向けて、保護対策を市・県・市民との協働で検討するよう求めました。



親鳥とヒナ

議員と語ろう

千葉市の新年度予算のベースとなる「各局予算要求の概要」を読み意見交換しませんか？

日時：2021年1月8日（金）

10：30～12：00

会場：千葉市議会棟1階応接室

問合せ：市民ネットワークちば

043-379-4958

実態調査を活かした盲ろう者支援を

目と耳の両方が不自由な「盲ろう者」の実態調査が昨年度行われ、適切な福祉サービスを使えていない方がいることがわかりました。そのような中、聞き取りの際に通訳介助者の制度を説明し、利用者登録につなげられたのは成果です。

今後も本人の意思を確認しながら、社会参加できるための支援を充実させることを、市に求めました。

コロナ禍でも学びを止めないで

緊急事態宣言が出され、市民の学びや集いの場であった公民館やコミュニティセンター等が休館を余儀なくされました。中でも、合唱やダンス、調理サークルなどは感染症対策が難しいとされ、さらに長期の活動休止を強いられました。

岡山市では「はなれて つながる こうみんかん」と題し、ケーブルテレビでの講座放映や SNS の活用、オンライン子ども料理教室など、コロナに負けずに学びの機会を作っています。千葉市でも新しい学びの場を工夫するよう求めました。

電磁波についての情報が足りない！

楽天モバイルが市立学校へ携帯基地局を設置し、市へ寄附や情報提供を行う協定が千葉市と結ばれました。多くの保護者から子どもの健康への影響を心配する声が届いています。市民が電磁波に関する疑問を話せる学習会等を開催し、情報不足を解消することを求めました。

また新世代の移動通信システムである5Gについては世界的にも安全性が確かではなく、オンライン学習においても当面は必要ない速度であるため、拙速に導入しないよう強く要望しました。



妊婦には冊子が配られているが・・・

国の交付金でコロナ対策が進む

新型コロナウイルス感染症対策で国からの臨時交付金が使えることになり、7月の臨時議会に続き、今議会でも新たな施策を決定しました。

- ▶新型コロナウイルス感染症対策 ①病床の確保 ②宿泊療養施設確保 ③入院医療費 ④休日救急の発熱患者診療 ⑤インフルエンザ予防接種 ⑥肺炎球菌予防接種 ⑦電話相談窓口委託 ⑧患者搬送委託
- ▶リカレント教育講座（学びなおし教育）のため、市と大学等が講座の30秒CMと30分講座の動画を作成
- ▶路線バス・タクシー・モノレールの感染拡大防止対策・スポーツセンター駅トイレの洋式化
- ▶中心市街地と幕張新都心の活性化のため、イルミネーション協賛金の減を補てん
- ▶臨時休館等行った指定管理施設に必要経費の増額